

令和 6 年度

運営に関する計画(最終評価)

大阪市立加賀屋学校

令和 7 年 3 月

大阪市立加賀屋小学校 令和6年度 運営に関する計画・自己評価（総括シート）

1 学校運営の中期目標

現状と課題

昨年度は、学校運営の指針の最重点目標「1. 子どもが安心して成長できる安全な社会の実現」「2. 心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上」をうけ、運営に関する計画の中で5つの年度目標を挙げ、教育活動を推進してきた。

その年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果は次のとおりである。

<1について>

- ・ 人権研修・特別支援教育の研修は指導計画に沿って進めることができた。
- ・ 「加小っ子3か条」を教職員で共通理解を図り、学級でも学年や状況に応じて適宜、これに照らし合わせながら指導してきた。
- ・ 児童集会を中心たて割り活動や児童会活動を通して、異学年交流を深めることができた。
- ・ 休みがちな児童に対して、子どもサポートネットなどの機関と連携し、登校を促すことができた。また、課題のある児童について、毎月、スクリーニング会議を設定し、全教職員で課題を共通理解することができた。

<2について>

- ・ 学習のめあてを明確にし、授業に取り組んだ。ICTではデジタル教科書、ナビマを活用できてきた。児童が主体的に取り組めるように発表の工夫などを行った。
- ・ 小集団での学習形態や個別指導等学習指導の体制や方法を工夫した。
- ・ 校長講話で聞きとった内容をまとめる活動を1年間取り組んだことにより、話を聞く力がついてきた。授業では、発表するときの話型を決めると発表できるようになってきた。
- ・ 縄跳びカードがあるので前向きに取り組むことができた。8割以上の児童が取り組むことができた。体育の時間に活用した。休み時間に友達と声を掛け合う姿も見られた。

今年度も学校運営の指針の最重点目標「安全・安心な教育の推進」「未来を切り拓く学力・体力の向上」「学びを支える教育換環境の充実」を受け、「強く、正しく、美しく」という教育目標、および、「自ら学び、心身ともにたくましく生きる子どもを育てる」という重点目標のもと、運営に関する計画を作成し、教育活動を推進していく。

2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

中期全市共通目標（小・中学校）

（1）安全・安心な教育の推進

- ・ 小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことがありますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を80%以上にする。
- ・ 年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。

（2）未来を切り拓く学力・体力の向上

- ・ 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を50%以上にする。
- ・ 小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より2ポイント向上させる。
- ・ 小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を84%以上にする。
- ・ 小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する児童の割合を62%以上にする。

（3）学びを支える教育環境の充実

- ・ 授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日が、年間授業日の50%以上にする。（ただし、学校行事等ICT活用が適さない日数を除く。）

【教職員の働き方改革に関する目標】

- ・ 第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準1を満たす教職員の割合を90%以上にする。

学校園の年度目標

（1）安全・安心な教育の推進

- ・ 互いに認め合う集団を育て、児童アンケートで、「学校は楽しい」「自分にはよいところや好きなところがある」の項目で、肯定的回答の児童の割合を85%以上にする。

（2）未来を切り拓く学力・体力の向上

- ・ 体力向上を図るとともに、児童アンケートで「運動をするのが好きで、運動をよくしている。」の項目で肯定的回答の児童の割合を80%以上にする。
- ・ 児童アンケート「給食をバランスよく食べるようにしている。」の項目で、肯定的回答の児童の割合を80%以上にする。

（3）学びを支える教育環境の充実

- ・ 教育活動をより効果的・効率的に推進するために、会議の運用を精査・工夫する。
- ・ 教育コミュニティづくりを推進し、地域の方とのふれあいの機会を設ける。

3 本年度の自己評価結果の総括

目標達成に向けて教職員が一丸となって、教育活動を推進することができた。特に、安心・安全な教育環境の実現、誰一人取り残さない学力の向上、健やかな体の育成において成果を上げることができた。

大阪市立加賀屋小学校 令和6年度 運営に関する計画・自己評価（最重要目標1）

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成 状況
<p>【最重要目標1 安全・安心な教育の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合を80%以上にする。 ・年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。 <p>※改善とは、次のいずれかの状態 1.出席日数の増。 2.ICTの活用による本人・保護者と学校のつながる回数の増。 3.養護教諭、SC、教育支援センターなど学校内外の専門的な指導・相談に（継続して）つながるようになった。</p>	B
<p>学校の年度目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・互いに認め合う集団を育て、児童アンケートで、「学校は楽しい」「自分にはよいところや好きなところがある」の項目で、肯定的回答の児童の割合を85%以上にする。 	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗 状況
<p>取組内容①【基本的な方向1 安心・安全な教育環境の実現】</p> <p>「加小っ子3か条」、「加賀屋小学校の約束」など、約束やルールの内容を全教職員が共通理解のもと、各月ごとに課題を明らかにしながら、指導にあたる。</p>	
<p>指標・毎週末、看護当番で児童の様子を引き継ぎ、成果や課題を次週の朝会で指導する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「加小っ子3か条」の月目標を掲示し、意識づけをする。 ・教職員が課題意識をもって課題解決にあたるために、児童の実態や課題を出し合う場を月に1回は設ける。 	B
<p>取組内容②【基本的な方向1 安心・安全な教育環境の実現】</p> <p>スクリーニングI会議を定期的に開催し、不登校傾向の児童を把握し、保護者・S C・子</p>	B

<p>どもサポートネット推進委員・SSWと連携し、適切に対処を行う。</p>					
<p>指標・スクリーニングⅠ会議を毎月、スクリーニングⅡ会議を学期に1回行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> 新たに不登校になる児童の割合を前年度より減少させる。 					
<p>取組内容③【基本的な方向2 豊かな心の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> 人権教育を充実させるために、人権教育(外国人教育・国際理解教育・特別支援教育も含めた)研修会を実施する。 人権教育実施計画に基づき、各学年人権教育を実施する。また、年度末には、取り組み内容を校内で報告しあい、必要に応じて、見直しを図る。 	B				
<p>指標・人権教育研修会を年3回以上実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 各学年人権教育を実施し、年度末には、取り組み内容を校内で報告しあう。 					
<p>取組内容④【基本的な方向2 豊かな心の育成】</p> <p>児童が自尊感情を高め、互いに認め合う集団を育てるために、人権教育に関わる実践を行う。また、たてわり活動や児童会活動を通じて異年齢交流を深める。</p>	B				
<p>指標・児童の実態に合わせて、年3回以上人権教育に関わる実践をし、児童の自尊感情を高める。月に1回以上たてわり活動や児童会活動を実施する。</p>					
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>					
<p>【全市共通目標について】</p> <ul style="list-style-type: none"> 小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する児童の割合は80%以上にする。\Rightarrow 【74.5%】 年度末の校内調査において、前年度不登校児童(4名)の改善の割合(前年度 66.7%)を増加させる。\Rightarrow 【4名中3名改善 75% 増加】 					
<p>【学校の年度目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 互いに認め合う集団を育て、児童アンケートで、「学校は楽しい」「自分にはよいところや好きなところがある」の項目で、肯定的回答の児童の割合を85%以上にする。 <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%;">(11月児童アンケート結果)「学校は楽しい」</td> <td style="width: 50%; text-align: right;">【92.7%で上回っている】</td> </tr> <tr> <td>「自分には良いところや好きなところがある」</td> <td style="text-align: right;">【81.4%で下回っている】</td> </tr> </table> 		(11月児童アンケート結果)「学校は楽しい」	【92.7%で上回っている】	「自分には良いところや好きなところがある」	【81.4%で下回っている】
(11月児童アンケート結果)「学校は楽しい」	【92.7%で上回っている】				
「自分には良いところや好きなところがある」	【81.4%で下回っている】				
<p>【取組内容①について】</p> <ul style="list-style-type: none"> 看護当番の引継ぎ・朝会での指導ともに丁寧に行ってきた。児童の話を聞く姿勢がとてもよいのでしっかりと続けていきたい。全体的にルールや時間を守る児童が増えてきた。児童の様子が気になったときに生活指導部長が前に出て話すのは続けていきたい。朝会で成果と課題を伝えすることが児童の意識の向上につながっている。 「加小っこ3か条」の月目標を学級で読み上げてから教室に掲示したので、児童と確認しながら、その都度意識づけできていた。 					

- ・スクリーニング（I）会議として月1回、児童の実態や課題を出し合う場を設定してきた。合わせて児童理解部会（学期に1回程）もあるので、児童の実態や課題はしっかりと共有することができ、学校全体で対応することができた。

【取組内容②について】

- スクリーニングⅠ会議：毎月職員会議前に実施
- スクリーニングⅡ会議：5月23日 10月8日 1月28日
- 新たに不登校になる児童の割合は**2学期末 0.5%**で前年度（1.4%）より**減少**。
 - ・毎月のスクⅠ会議で、児童の様子について全教職員で情報共有を図り、組織的な対応に努めた。家庭環境面でサポートが必要な事案については、スクⅡ会議に挙げるなど、区役所の子サポ推進委員やSSWと連携した対応を行うことができた。また、必要と思われる保護者・児童にはカウンセリングを勧め、SCと連携した対応も行ってきた。前年度から不登校であった児童や本年度新たに不登校になる児童については、改善がみられる。
 - ・教職員全体での情報共有はもちろんのこと、児童・保護者との継続したコミュニケーションや児童に必要な支援体制の整備、区役所やSCとの情報共有など迅速で継続的な連携が効果的であった。また、支援学校の地域支援を要請し、改善に向かっている事案もある。

【取組内容③について】

(進捗状況)

- 特別支援教育研修会 4/1・5/14・(3/5) 全体会 7/30 通級指導について
- 三区（住之江・住吉・西成）合同人権教育研修会 6/5・10/16・2/12 のいずれかに参加
- ・計画的に行うことができた。研修を通して、児童への理解が深まり、児童への関わり方を振り返るきっかけになった。相手の立場にたって考えたり、相手のよいところを見つけようと意識したりする児童が増えつつある。教職員が研修を通して、資質を向上させていくことが効果につながる。

【取組内容④について】

(進捗状況)

- ・「みんな遊び」はいろんな子とかかわるきっかけになり、集団づくりにつながった。
- ・いいところみつけなどのピアサポートを計画的に行い、自己理解・他者理解を深めることができた。
- ・週に1度程度の児童集会（たてわり）を行ってきた。思いやりの心が育ち、異学年で協力する姿が見られる。

今後の課題

取組内容①

- ・引継ぎファイルの活用など、スムーズな引継ぎを行うための工夫を行う。
- ・教室以外でも月目標の掲示の場所について検討していく。

取組内容②

- ・不登校児童だけでなく、その傾向が見られる児童への働きかけも継続して行っていく。

取組内容③④

- ・今後も継続して取り組んでいく。

(大阪市立加賀屋小学校 令和6年度 運営に関する計画・自己評価(最重要目標2)

評価基準 A : 目標を上回って達成した C : 取り組んだが目標を達成できなかった	B : 目標どおりに達成した D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった
---	--

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する児童の割合を50%以上にする。 ・小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を同一母集団において経年に比較し、いずれの学年も前年度より2ポイント向上させる。 ・小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を84%以上にする。 ・小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する児童の割合を62%以上にする。 	B
<p>学校の年度目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体力向上を図るとともに、児童アンケートで「運動をするのが好きで、運動をよくしている。」の項目で肯定的回答の児童の割合を80%以上にする。 ・児童アンケート「給食をバランスよく食べるようになっている。」の項目で、肯定的回答の児童の割合を80%以上にする。 	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>児童が自分の考えを深めたり、広げたりすることができる学習活動を工夫する。</p> <p>指標・1日1回以上、グループやペアでの話し合い活動を取り入れる。 ・学習者用端末の共同学習支援ツールを学期に複数回以上活用する。</p>	B
<p>取組内容②【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>国語科・算数科において、個に応じた授業を行い、学力向上を図る。</p> <p>指標 国語科と算数科の単元テストの平均点を5月から12月にかけて上昇させる。</p>	B
<p>取組内容③【基本的な方向4 誰一人取り残さない学力の向上】</p> <p>話す力を育てるために、話し方を大切にした学習活動を行う。</p> <p>指標・児童意識調査「(学習中)『話し方名人 か・き・く・け・こ』意識した話し方ができていますか」において、肯定的に答える児童の割合が前期から後期にかけて上昇するようにする。</p>	B

取組内容④【基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上】																																																											
朝（水・金）に英語の短時間学習を計画的・系統的に行う。	B																																																										
指標・学習教材（DREAM）の指導案もとに指導計画を作成し取り組む。																																																											
・英語の表現に楽しく触れられるよう、絵本・DVD・CD等の教材を活用する。																																																											
取組内容⑤【基本的な方向 5 健やかな体の育成】																																																											
・カガリソピックなどの運動の機会を計画的に設定し、体力向上を図る。																																																											
・休み時間に、みんな遊びなど体を動かす機会を設定し、外遊びを進める。																																																											
指標・カガリソピックを学期に1回設定し、頑張りカードを活用し運動する機会を設ける。	B																																																										
・児童アンケート「1日1回は外遊びをしている」の項目において肯定的回答の児童の割合を前期から後期にかけて上昇するようにする。																																																											
取組内容⑥【基本的な方向 5 健やかな体の育成】																																																											
・赤・黄・緑の食べ物をバランスよく食べるなど望ましい食習慣を身に着けるために給食指導を日常的に行う。																																																											
・食育の推進、適切な食物アレルギー対応のため、給食・食育部会を開催する。	B																																																										
指標・「食育だより」（月1回）「給食カレンダー」（給食時）を活用した指導を行う。																																																											
・給食・食育部会を月1回開催する。																																																											
・食育・食物アレルギーについて、保護者に啓発を行う。																																																											
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析																																																											
【全市共通目標について】小学校学力経年調査において																																																											
・「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」で最も肯定的に回答する割合を50%以上→【33.6%】（R4 31.9 R5 30.4）																																																											
・国語および算数の平均正答率の対全国比を同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より2ポイント向上→いずれの学年においても、学力の向上が見られ、2学年において前年度より2ポイント以上向上した。																																																											
<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th>3年</th> <th>4年</th> <th>5年</th> <th>6年</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="5">国語</td> <td>全国平均</td> <td>62.3</td> <td>69.9</td> <td>71.9</td> <td>69.9</td> </tr> <tr> <td>本校</td> <td>62.3</td> <td>64.5</td> <td>71.9</td> <td>62.1</td> </tr> <tr> <td>本年度対全国比(a)</td> <td>1.00</td> <td>0.92</td> <td>1.00</td> <td>0.89</td> </tr> <tr> <td>前年度(b)</td> <td></td> <td>0.79</td> <td>0.97</td> <td>0.90</td> </tr> <tr> <td>前年度差(a)-(b) ポイント</td> <td></td> <td>13</td> <td>3</td> <td>▲1</td> </tr> <tr> <td rowspan="5">算数</td> <td>全国平均</td> <td>70.9</td> <td>67.6</td> <td>63.0</td> <td>67.3</td> </tr> <tr> <td>本校</td> <td>73.9</td> <td>72.9</td> <td>68.4</td> <td>70.5</td> </tr> <tr> <td>本年度対全国比(a)</td> <td>1.04</td> <td>1.08</td> <td>1.09</td> <td>1.05</td> </tr> <tr> <td>前年度(b)</td> <td></td> <td>0.77</td> <td>0.92</td> <td>1.09</td> </tr> <tr> <td>前年度差(a)-(b) ポイント</td> <td></td> <td>31</td> <td>17</td> <td>▲4</td> </tr> </tbody> </table>			3年	4年	5年	6年	国語	全国平均	62.3	69.9	71.9	69.9	本校	62.3	64.5	71.9	62.1	本年度対全国比(a)	1.00	0.92	1.00	0.89	前年度(b)		0.79	0.97	0.90	前年度差(a)-(b) ポイント		13	3	▲1	算数	全国平均	70.9	67.6	63.0	67.3	本校	73.9	72.9	68.4	70.5	本年度対全国比(a)	1.04	1.08	1.09	1.05	前年度(b)		0.77	0.92	1.09	前年度差(a)-(b) ポイント		31	17	▲4	
		3年	4年	5年	6年																																																						
国語	全国平均	62.3	69.9	71.9	69.9																																																						
	本校	62.3	64.5	71.9	62.1																																																						
	本年度対全国比(a)	1.00	0.92	1.00	0.89																																																						
	前年度(b)		0.79	0.97	0.90																																																						
	前年度差(a)-(b) ポイント		13	3	▲1																																																						
算数	全国平均	70.9	67.6	63.0	67.3																																																						
	本校	73.9	72.9	68.4	70.5																																																						
	本年度対全国比(a)	1.04	1.08	1.09	1.05																																																						
	前年度(b)		0.77	0.92	1.09																																																						
	前年度差(a)-(b) ポイント		31	17	▲4																																																						

- ・「外国語（英語）の勉強は好きですか」で肯定的に回答する児童の割合を84%以上
→【71.8%】(R4 83.4 R5 75.0)
- ・「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」で最も肯定的な「好き」の割合を62%以上
→【66.4%】達成 (R4 60.9 R5 59.9)

【学校の年度目標について】児童アンケートより

- ・「1日1回は外遊びをしている」で肯定的回答の割合
(5月) 74%→(11月) 75.5% 上昇
- ・「給食をバランスよく食べるようにしている。」で、肯定的回答の割合を80%以上
(5月) 87%→(11月) 90.6% 達成

【取組内容①について】

(進捗状況)

- ・1日1回以上、さまざまな学習において、自分の考えを作る時間を十分に設け、ペアやグループで自分の考えを伝え合う活動を取り入れてきた結果、自信を持って発表する児童が増えた。話し合いの経験を重ねることで、話し合うことへの抵抗感が減ってきた。また、自分の考えを持ちにくかった児童も考え方を持つことができるようになってきた。話し合いのめあてや観点を明確にして取り組ませたことが、効果的であった。
- ・ロイロノートによる発表やグループ学習、チームズによる共同編集、スカイメニューの作品提出機能などを活用した。自主的に調べる児童が増えた。書くことに抵抗がある児童も取り組めるようになった。友達の考え方を参考にして自分の考え方を広げることもできた。

【取組内容②について】

(進捗状況)

- 12月単元テストの平均点 国語科：86.0点（↑5月83.4） 算数科：87.8点（↑5月84.8）
 - ・国語科では、自主学習ノートを用いて漢字の学習の定着を図った。算数科では、T2と連携し、個別指導をしたり、隙間時間でフォローアップをしたりした。基礎問題はデジタルドリルで習熟を図った。

【取組内容③について】

- 児童意識調査「（学習中）『話し方名人 か・き・く・け・こ』意識した話し方ができていますか」で肯定的に答える児童の割合
 - 「相手の顔を見て話すことができていますか」 （前期93%）→(後期96%) ↑
 - 「声のものさしに気を付けてはなしていますか」 （前期83%）→(後期87%) ↑
 - 「結論や自分の考えをはなしていますか」 （前期80%）→(後期79%) ↓
 - 「聞き取りやすい声ではなしていますか」 （前期87%）→(後期86%) ↓
- ・個人差はあるが、声の大きさや結論から話すなど、多くの児童の話し方に変化が見られるようになってきた。話し合い活動を意図的に取り入れ、互いの話を聞き合い感想を伝え合うことが効果的であった。

【取組内容④について】

- ・外国語の学習内容に沿った内容を活用するなど、ほぼ計画通りに実施できた学年もあるが、行事等との関係で時間の確保が難しい時期もあった。
- 繰り返しの表現を聞いたり見たりすることで、単語や表現を口ずさむ児童ができた。PHONICSは発音の面でカタカナ英語になりにくくて良い。SONGなど出てくる単語や表現をジェスチャーをつけながら覚えると効果的である。

【取組内容⑤】

(進捗状況)

- カガリンピック学期に1回設定

6/3～6/7 遊具週間 11/18～11/22 なわとび週間 1/20～1/24 かけあし週間

- 児童アンケート「1日1回は外遊びをしている」で肯定的回答の割合：

(5月：74.0%) → (11月) **75.5% 上昇**

- ・カガリンピックという学校全体での取り組みを行うことで、期間中だけではあるが普段教室で過ごす児童も外に出て参加する姿が見られた。カガリンピックを通して体を動かすこと親しみを持つことができた。

【取組内容⑥】

- ・喫食前のあいさつで給食カレンダーの内容を読むようにした。「食育だより」を読む習慣が身に付き児童の食への関心を深めることにつながっている。食育だよりは配付時に全体で読み、その後教室内に掲示するようにした。給食カレンダー」を毎日チェックし給食を楽しみにする児童が増えた。
- ・給食・食育部会を月1回開催してきた。給食の受取・喫食・返却時の児童の様子や次月の対応献立の確認など情報交換をしている。課題があれば改善について連絡会で教職員に周知している。
- ・ホームページで「日々の献立」「使用食材の栄養素」「バランスの良い食事の呼びかけ」を発信している。

今後の課題

取組内容①

- ・スカイメニューを今後も活用し、基本の使い方を共同学習につなげていく。

取組内容②

- ・個に応じた授業の具体的な指導法を学校全体で共有していく。

取組内容③

- ・継続して取り組む。

取組内容④

- ・DREAM・特に絵本を活用する時間の確保を工夫し、継続して取り組む。

取組内容⑤

- ・運動が苦手な児童にも、運動に親しみを持てるよう工夫する。

取組内容⑥

- ・効果が出ているため引き続き取り組む。

大阪市立加賀屋小学校 令和6年度 運営に関する計画・自己評価（最重要目標3）

評価基準 A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標3 学びを支える教育環境の充実】</p> <p>【ICTの活用に関する目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。(ただし、学校行事等ICT活用が適さない日数を除く。) <p>【教職員の働き方改革に関する目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する基準1を満たす教職員の割合を90%以上にする。 <p>学校の年度目標</p> <ul style="list-style-type: none"> 教育活動をより効果的・効率的に推進するために、会議の運用を精査・工夫する。 教育コミュニティづくりを推進し、地域の方とのふれあいの機会を設ける。 	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【基本的な方向6 教育DXの推進】</p> <p>ICTアシスタントと連携し、学習者用端末を生かした個別および集団での学習形態や学習内容を構築する。</p> <p>指標 ICTアシスタントが活用支援を行うために、学級への入り込み指導を計画的に行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> 取組を拡充するために、ICTアシスタントと連携し研修会を1回以上行う。 	B
<p>取組内容②【基本的な方向6 教育DXの推進】</p> <p>学習者用端末を、学習その他の場面で活用する。</p> <p>指標 授業日において、一日に一度、端末を使用したという割合を80%以上にする。</p>	B
<p>取組内容③【基本的な方向7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】</p> <p>始業式や終業式、学校閉庁日の柔軟な運用を行う。</p> <p>指標 給食実施日や終了日に合わせて、始業式・終業式を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校閉庁日を、夏季休業と冬季休業期間にそれぞれ5日程度設ける。 	B
<p>取組内容④【基本的な方向7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】</p> <p>教育活動をより効果的・効率的に推進するために、会議の運用を精査・工夫する。</p> <p>指標 課題や実態に応じた教育活動を進めるために、企画会を月1回開催する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 案件を提案する際に部会等で十分に練る。 	B
<p>取組内容⑤【基本的な方向7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】</p> <p>時間外勤務時間が45時間以上の教職員の割合を5%以下にする。</p>	B

指標・週1回ゆとりの日を設定する。	
取組内容⑥【基本的な方向8 生涯学習の支援】 地域の図書ボランティアと連携し、学校図書館の活性化および読書活動の推進を図る。 B	B
指標 図書ボランティアと連携し、読み聞かせ活動を毎月行う。	
取組内容⑦【基本的な方向9 家庭・地域等と連携協働した教育の推進】 保護者・地域の方との協働による活動を行う。	B
指標・地域の方とのふれあい活動を、各学年1回以上行う。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
【学びを支える教育環境の整備について】 ・授業において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数は、 1月末時点で4.4%だが、活用率は着実に上昇している(1月平均活用率72.6%)。 ・第2期「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間の上限に関する <u>※基準1</u> を満たす教職員の割合は、 1月末時点で66.67%(昨年度70.00%) であるが、 教員一人当たりの平均時間外勤務時間(累計)は23時間06分(昨年23時間50分) と改善されている。 (※基準1) 次の⑦及び①の基準を満たす ⑦ 1か月の時間外勤務時間が45時間を超えない ① 1年間の時間外勤務時間が360時間を超えない	
【取組内容①について】 ○取組を拡充するためにICTアシスタントと連携したICT研修会: 9/17 プログラミング用貸出口ボット活用研修会) ・調べ学習や機器の使用方法への支援を受けた。ロイロノートの活用の方法を教えていただきたり、トラブルが起きた際に迅速に対応していただいたりと、端末の活用を推進できた。 児童・保護者アンケートでフォームズを使うときに、有効的な使用方法について支援していただいた。 (ICTアシスタントの活用) ICTアシスタントが前回来校したときに打ち合わせをしておき、 次の回に授業へ入ってもらい支援をしてもらう。当日授業に入ってもらいパソコントラブルや操作わからない児童に対して対応してもらう。放課後や空き時間にパソコンの活	

用方法を教えてもらう。

【取組内容②について】

- 児童アンケート「授業日において、一日に一度端末を使用した」割合

(5月 66%) →(11月 84.9%)上昇

- ・連絡帳、算数の思考、作文の下書き、調べ学習、発表資料の作成、ナビマ、漢字練習、プログラミングで活用している。登校したら「心の天気」を入力する習慣をつけた。社会、理科などの調べ学習を中心に活用した。実際に見学や観察できないときに有効であった。

【取組内容③について】

- 1学期終業式、2学期始・終業式、3学期始業式を給食の終了・開始日に実施

- 学校閉庁日を夏季休業に4日間、冬季休業に5日間設置

- ・始業式や終業式に4時間授業にすることで、余裕をもって学習指導ができた。
- ・学校閉庁日を設けることで、全教職員が一斉に休養を取ることができた。

【取組内容④について】

- ・健康教育部会、拡大生指部会、学校行事部会で、案件を十分に練ったうえで月1回の企画会に提案できた。企画会を開催することによって、スムーズな職員会議の実施へと繋がった。大きな行事の部会開催を年間行事に入れておくのは、計画・立案の見通しが立って良かった。

【取組内容⑤について】

- 週1回ゆとりの日を設定してきた。累計で一人当たりの平均時間外勤務時間が1月点で23時間06分と昨年度23時間50分より改善がみられる。

- ・なるべく早く退勤するよう心掛けはできた。隙間時間を活用し仕事を終わらせている。教育活動支援員からの多くの支援があり、時間外勤務時間の削減につながった。(長期休業の宿題印刷、図書館蔵書点検、教育活動に使う印刷物(カガリソピックなど)、職員室の清掃、児童アンケートのフォームズ作成、電話対応、遅刻欠席児童への学級・家庭への連絡、校内安全点検など)

【取組内容⑥について】

- 図書ボランティアと連携した読み聞かせ活動を月1回実施

- 図書館での貸出状況

月別貸出冊数一覧

2025/01/10

【条件】検索期間：2024/04/01～2024/12/31 学年：1～6 性別：全体

1頁

年	月	開始日付	終了日付	順位	冊数	平均(冊)
2024	4	2024 / 04 / 01	2024 / 04 / 30	7	920	4.6
	5	2024 / 05 / 01	2024 / 05 / 31	2	1,204	6.0
	6	2024 / 06 / 01	2024 / 06 / 30	1	1,373	6.8
	7	2024 / 07 / 01	2024 / 07 / 31	6	970	4.8
	8	2024 / 08 / 01	2024 / 08 / 31	0	0	0.0
	9	2024 / 09 / 01	2024 / 09 / 30	3	1,180	5.8
	10	2024 / 10 / 01	2024 / 10 / 31	4	1,054	5.2
	11	2024 / 11 / 01	2024 / 11 / 30	5	971	4.8
	12	2024 / 12 / 01	2024 / 12 / 31	8	846	4.2
	1	2025 / 01 / 01	2025 / 01 / 31	0	0	0.0
	2	2025 / 02 / 01	2025 / 02 / 28	0	0	0.0
	3	2025 / 03 / 01	2025 / 03 / 31	0	0	0.0
【合計】					8,518	42.2

- ・読みきかせを楽しみにしている児童が多く、進んで読書する児童や、本から得た知識を友だち同士で伝え合う姿が見られたのがよかった。

【取組内容⑦について】

・地域の方とのふれあい活動の実施状況

- 1年生：いちご狩り 2年生：イモほり 3年生：じゃがいもほり
 4年生：大根ほり 5・6年生：花咲かせ隊の皆さんとの苗植え
 ・地域の方とかかわることで、積極的にあいさつをするようになったと児童の声があがっている。ふれあいを通して、自分たちも地域の一員という気持ちは育まれている。

今後の課題

取組内容①

- ・ICTアシスタントと連携するために、事前に計画し打ち合わせを行うようとする。

取組内容②

- ・「心の天気」以外でも、デジタルドリルなどに取り組んでいく必要がある。

取組内容③

- ・継続して取り組む。

取組内容④

- ・各会議の開き方やメンバー一本化できるところはしていく必要がある。

取組内容⑤

- ・ゆとりの日の設定という表面的な方法でなく、本質を捉えた教員の働き方改革について考えていくべき。

- ・ゆとりの日を設定したうえで業務も減らしてくれないと働き方改革には繋がらないと思う。

- ・本当の意味での働き方改革について考える。

取組内容⑥

- ・今後も継続していく。担任がいるところでの読み聞かせができればよりよい。

取組内容⑦

- ・今後も継続していく。